

# ひまわりの声

題字は高森政雄区連会会長

編集・発行 港南区連合町内会長連絡協議会



高森政雄港南区連合  
町内会長連絡協議会会長

## 「災害時要援護者対策」について、積極的に取組みます

区民の皆さまには、日頃から「区連会」の活動に御協力と御支援を賜り、誠にありがとうございます。

少子高齢化の進展に伴い地域を取り巻く環境は大きな変化を見せています。

これからも住みよい地域づくりを最大限に進めていくためには、自治会・町内会が行政と密接に協力しながら、パートナーシップによる地域運営をすることがさらに必要であると思っています。

今年度「区連会」としては、今後の地域での相互扶助の核となる「災害時要援護者対策」を、日頃からの自治会・町内会での活動を通じて、助け合いや見守り活動につなげられるよう、積極的に取組んでまいります。

区民の皆さまの御参加と御協力をお願いいたします。

平成22年、猛暑の夏 ひまわりの子等は元気だった!!  
—子どもたちが活躍すると「自治会町内会」が活性化される—

## 笹下連合子供防災体験キャンプ

“防災訓練”のポイントは、「相互救助」が可能な「適正規模の集団」である“班”を編成することです。

平成22年7月17日・18日の両日、笹下連合町内会(清水鐵夫会長)において、恒例(通算第11回目)となっている「子供防災体験キャンプ」が、南台小学校の校庭、体育館、ふれあい公園の3拠点で大々的に開催されました。

この防災訓練は、大会委員長に清水笹下連合町内会会長、実行委員長に荻久保頼則氏、班組織の運用・スケジュールの維持などを行う実行委員に柿沼恵子氏、南台小学校・相武山小学校の校長と教職員などが参加協力、港南区役所、港南消防署が連携して、慎重に計画したうえ、実施されました。

## ●訓練を受ける子どもたちは真剣そのものでした

この防災体験キャンプの具体的内容は以下の通り。

初日の17日、午後1時20分、南台小学校校庭に609人(児童346人、その保護者78人、中学生ボランティア47人、連合女性部有志・青少年指導員・体育指導委員等々の一般ボランティア138人)が集合しました。

そして、災害時の「避難行動」を整然と実施するため、その必須条件となる「適正規模の集団」として班を編成(1班あたり30人前後で20班)。各班に1人ずつの専任リーダーを配置し、班単位で「ふれ



全力疾走の担架リレー

あい公園」に移動する避難・誘導訓練を行いました。その後、児童たちの「起震車」による震度6強の大地震体験訓練や、応急担架の作製と患者の搬送訓練、煙の中での脱出訓練、高所からの脱出に必要な縄梯子を作製するシート・ワーク等々、「万一」の時に最低限必要とされる訓練が約2時間、港南消防署員20人（リーダー・江澤港南消防署予防課長）の指導により実施されました。

●避難宿泊訓練は子どもたちに大人気!!  
翌朝の感想発表は大人顔負けの鋭い意見が...

訓練終了後、全員が班別になって南台小学校の校庭に戻り、いよいよ“避難宿泊”訓練の準備が開始されました。

午後6時、20班600人の児童と保護者が、ボランティアの女性陣と児童達が協力して調理した“緊急食”のカレーライスで夕食、その後、午後7時から児童達の頑張りをたたえるキャンプファイアーが開催されました。

午後8時、宿泊予定の300余人は南台小の体育館で映画を鑑賞、午後10時、全員がそれぞれに準備した毛布、寝袋、マット等々で就寝しました。

2日目の18日、午前5時に全員が起床、ラジオ体操の後、午前6時予定の朝食までの時間を利用して、各班の児童代表により、今回の訓練に関する感想と要望の発表会が開催されました。

約20人の代表は次々とジャングルジムに登場、元気に発言しました。（これらの発言の一部を別欄で紹介）

午前6時には、午前5時から地域のボランティアの女性陣が心を込めて準備した朝食のポトフと乾パンが配られました。よほどおいしかったらしく、児童は次々とおかわりをしていました。

午前7時30分、体育館内で清水大会委員長が「こ

の猛暑の中、600人を超える児童と各分野のボランティアの皆さんが、実に真剣に訓練を実施されたことに深甚なる敬意を表すると共に、この訓練体験が、10年後であれ、20年後であれ、『万一』の時に有効活用されることを切望します。今回は誠に御苦労様でした。」と閉会を宣言、この「子供防災体験キャンプ」は無事に終了しました。

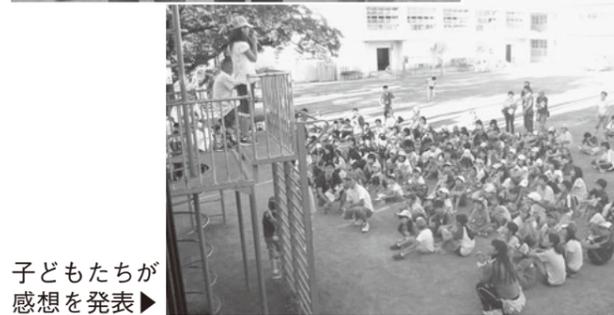
これほどに大規模なイベントにもかかわらず、一切の事故もトラブルも無く、班長を中心に30人前後の班員で編成されたグループが、最初から最後まで見事に統制が取れていました。

これは、班長や班員の方々、日常的に行動を共にする仲間であり、お互いに気心が知れているということが、大きなポイントであると考えます。

つまり、地域社会（＝自治会町内会組織）の活力の源は、そうした個人と個人の日常的な付き合いと、その延長線上にある、適正規模の集団である“班別の組織”そのものであると確信しました。



◀実行委員の皆さん  
（左から荻久保実行委員長、清水大会委員長、柿沼委員）



子どもたちが感想を発表▶

# 子どもたちの感想

この防災体験キャンプに関する  
子どもたちの感想は...

- 5年・女子/初めて避難宿泊を体験した。人が多く息苦しかった。とても眠ることができなかった。災害があった時の体験ができてよかった。
- 6年・男子/女性の班長でしたが、すごくてきばきとしていて100%信頼できた。でも、少し怖かった。役に立つ訓練ができてよかった。

- 6年・女子/睡眠時間が不足だった。周囲が気になって眠れなかった。
- 3年・女子/高所から脱出するための縄梯子とかロープの作業は良い経験となった。マンションでは絶対に必要だと思った。
- 5年・男子/来年は異なる内容の訓練もしたい。
- 5年・男子/煙の中からの脱出訓練は初めての体験であり良い勉強になった。
- 6年・女子/震度6強の地震がいかに物凄いものであるかを実感できてとても勉強になった。起震車での訓練をもっともっと頻繁に実施して欲しい。
- 4年・女子/見回りの人の足音などが気になり眠れな



リー子!  
次は当たるかな?  
～黄金苑自治会・芹が谷自治会・三井団地自治会  
合同ふれあい祭り「ピンゴゲーム大会」～



ワッショイ!  
みんなで担げば重くない  
～玉興町内会盆踊り大会「子ども神輿」～



イキイキ  
わんぱく遊びでハツラツ  
～港南台連合自治会が協力した  
「港南台中央公園を使ったプレイパーク活動」～

## 写真集

### “猛暑の夏、子どもたちが主役だった”

～地域が子どもの成長を見守る～

区内の自治会町内会では、子どもたちが活躍するさまざまな行事が行われています。ここでは、その一部を紹介します。



みんなの公園をきれいに  
～勸永町内会の「公園清掃」～



ゴミの多さにビックリ  
～日下連合町内会が参加・協力した  
「よみがえれ! 笹下川クリーンアップ大作戦」～



日ごろの成果を発表  
～日野町内会納涼盆踊りの「子ども盆踊り」～



清掃のごほうび“焼きイモ”  
～日野住宅地自治会の「道路清掃と焼き芋大会」～

かったけれど、実際の避難での様子を実感できた。

- 3年・男子/朝食をもっと早くして欲しい。
- 4年・男子/担架で患者を搬送するのはチームワークが大変だった。大切な作業だと実感できた。リレーは失敗、賞品を手になできなかった。でもどの班も真剣に頑張った。だから全部の班に賞品が欲しかった。
- 3年・女子/夕食のカレーと朝食のポトフがとてもおいしかった。毎日でもキャンプをしたいと思った。
- 5年・女子/キャンプファイアはとても楽しかった。
- 5年・女子/とにかく疲れた。“本番”の避難宿泊であつたらどのようなことになるのか?…と考えると怖い。今はとにかく家に帰ってシャワーを浴びたい。



れました。

また、ボランティア参加をした中学生達（最高で通算7回の参加も...）は、「小さい子どもたちに対する教え方を学ぶことができた」「話を聞かせる時は座らせると、良く話を聞くことがわかった」など、中学生としてのしつかりとした感想を聞くことができました。

5、6年生の中には、将来にわたり、こうした訓練に参加するとの意見が多くあり、取組の成果が伺われました。特に女子は、今後は中学生ボランティアとしてぜひ参加したいとの声が多く、積極的な姿勢が伺

# 3自治会町内会合同親睦 ペタンク大会

～“ゲートボールよい気軽”と好評～

9月25日9時30分～寒い曇天模様の中、上永谷町内会・上永谷富士見台自治会・美晴台自治会の3町内会恒例の第23回ペタンク大会が開催されました。

6チーム18人で競技開始、応援する人、合わせて34人の元気なお年寄りが参加、選手最高齢の女性（86歳）の投球は、年齢を感じさせない力強いものでした。



▲ゲーム風景

投的の様子▼



大きい方は  
投げる球

標的(ビット)  
は小さな赤い球

## 地域に役立つ情報コーナー

## 港南区役所で聞きました。

地域主体のまちづくりを進めるため、地域に役立つ情報を港南区役所から聞くコーナーを設けました。

今回は、総務課にお聞きしました。

今年度港南区役所では「誰もが安心して暮らせるまち」を区政運営方針の基本目標として、自治会・町内会の皆さんとともに様々な取組を進めています。

その中で、【災害時要援護者対策】については、「始めているが、今後どのように進めていかわからない」という声や「他の自治会の取組状況を知りたい」、「日頃の自治会活動の延長線上で取組を始めたい」などの声が総務課に寄せられています。

そこで今回は、既に取り組みを始められた自治会・町内会などの活動事例の一端をご紹介します。

- ①家具の転倒防止器具を活用して、見守り活動を実施
- ②自治会の班を分割して情報を共有し、助け合うシステムの向こう三軒両隣方式を実施
- ③町内会有志による防災協力隊を立ち上げ、日頃の見守り活動を実施
- ④組内（班内）でのお知らせの回覧、町内会費・募金集め等の機会を利用して、声かけを実施

⑤普段からの自治会活動の延長として、班ごとに防災パトロールを実施

⑥お祭りやイベント等を活用して、楽しく人のつながりができ、自然に向こう三軒の関係を構築

### 【事務局から】

地域で活動されている皆さんからいただくお声で、地震など災害発生時の最も重要なポイントだと痛感することは、「日頃からお互いに顔見知りであるからこそ、いざというときに助け合うことができる」ということです。

今年度は、全ての地区連合エリアで「地域福祉保健計画」が作成されると伺っています。災害時要援護者対策を進めていただくことが、地域のつながりづくりに役立てるように我々も一生懸命お手伝いさせていただき決意しています。是非お気軽にお問い合わせをお待ちしています。

### ●問合せ

港南区総務課（港南区役所3階34番窓口）

☎847-8306

○次号の「区連会会報「ひまわりの声」No.7」は…

- 楽しんで加入促進 ～日野第一連合町内会ふれあいフェスタの紹介～
- 子どもたちの初詣 ～港南区の神社仏閣等の紹介を交えた初詣風景の紹介～
- ふるさと港南の冬の風物詩 ～自治会町内会が行う特色のある年末・年始の行事紹介～

等々です。お楽しみに!!

## 編集 後記

■10年後、20年後の自治会町内会の大きな担い手となる子どもたちの活動の特集しました。

■本紙および区連会へのご意見・ご要望は区連会事務局までお寄せください。 ■区連会会報担当 遠藤良一／中島淑子、

編集委員 松田英樹／筒井英子（横浜市港南区港南中央通10-1 港南区役所地域振興課内 ☎847-8391 FAX842-8193）